

## 画像の認識・理解論文特集の発行にあたって



画像の認識・理解論文特集編集委員会

委員長 黄瀬 浩一

本特集は、2014年7月28日から31日の間に開催された第17回画像の認識・理解シンポジウム（MIRU）に沿って企画されたものである。MIRUは昨年度を改革元年とし、国際化、議論重視に向けて大きく舵を切った。詳細は昨年度の「画像の認識・理解論文特集」の巻頭言に詳しく書かれているとおりである。昨年度に引き続き、今年度も200件を超える発表や600人に近い多数の参加者を得、改革が根付きつつあることを実感できた。

改革は、本特集を取り巻く環境にも大きな変化をもたらした。特に、MIRUへの投稿で査読を行うものについては、以前は、多くが日本語8ページの形式であったのが、改革後は英語4ページとなった。また著者が望めば、情報処理学会のトランザクションへの同時投稿も可能となった。これに伴って、本特集の役割も、MIRUの優秀な発表を推薦等の制度を利用して論文化して頂くというものから、発表時より内容を更に発展させ、新規に論文化して頂くというものとなった。もちろん、MIRUでの発表の有無にかかわらず、画像の認識・理解に関する論文が歓迎されることは言うまでもない。

今年度は、論文投稿の勧誘策の一つとして、特に博士後期課程学生の皆さんの利便性を考え、採録決定が博士論文の審査に間に合う12月までに可能なように、投稿締め切りをMIRU開催直前に設定した。このような少々変則的な締め切りであるにもかかわらず、最終

的に18編の投稿を頂いた。通常の論文と同一の厳正かつ慎重な審査を経て、10編の採録論文を得、ここに特集として掲載することになった。結果として、MIRUでの発表を発展させたものだけではなく、広く画像の認識・理解に関する優秀な論文を集めることとなった。

最後に、優れた研究成果を投稿して下さった著者の方々、投稿論文を丁寧に閲読して頂いた査読委員の方々、査読結果を踏まえて厳正な審査をして下さった編集委員の方々、更に、編集委員会実務の円滑な進行に尽力頂いた編集副委員長の岡谷貴之氏並びに編集幹事の岡田隆三氏、玉木徹氏、煩雑な事務作業に御協力頂いた学会事務局の皆様にも心より御礼申し上げます。

黄瀬 浩一（正員：シニア会員） 1986年阪大・工・通信卒。1988年同大大学院博士前期課程了。同年同大大学院博士後期課程入学。1991年阪府大・工・電気助手。現在、同大大学院工学研究科教授。博士（工学）。2000年～2001年ドイツ人工知能研究センター客員教授。文書画像解析、情報検索、画像認識などの研究に従事。2006年度本会論文賞、2007年、2013年IAPR/ICDAR Best Paper Award、2010年IAPR Nakano Award、ICFHR Best Paper Award、2011年ACPR Best Paper Award各受賞。現在、IAPR TC11 (Reading Systems) Chair, IAPR Conferences & Meetings Committee 委員, International Journal of Document Analysis and Recognition (IJ DAR) Editor-in-Chief。本会パターン認識メディア理解研究会副委員長。情報処理学会、人工知能学会、電気学会、IEEE、ACMなどの会員。

